

第 11 章 意識構文：訳出の手引き

この章では、和訳の際に意識した方が日本語として自然になる構文を、京大の出題の中から集めてみた。とは言え、**it is not until ~ that ...**「～して初めて...」や **never ~ without doing ...**「～すれば必ず...」といったような、通常の参考書には必ず掲載されているものは省き、あまり巷の英語攻略本では強調されていないものが中心になっている。次も通常の参考書に載っていることが多いと判断し、本編からは削除したものであるが、うまく訳せるだろうか。

(1) It will not take her long to leave these particular expressions of her helplessness behind. She will soon crawl or find an alternative way of moving until she is ready to discover walking.

[2005 年後期・下線部]

(2) The first time I saw this video, which was not so very long ago, I found myself experiencing an extraordinarily bewildering minute, moved more deeply than I could readily account for.

[1991 年後期・下線部]

(1) **It will not take her long to do** ～は「～するのにさほど時間がかからないだろう」という直訳でも構わないが、前から「程なくして～するだろう」と訳せば左から右に読める。～ **until ...** も「...するまで～する」よりも、「～して、ついには...」という意識のパターンを知っておけばこれも訳し下ろせる。

(2) **more ... than _ can** ～は **than** 以下を否定で訳して「～できないほど...」と訳すと自然な日本語に近づく。moved は **experiencing** と同格。

【訳例】

(1) 程なくして、彼女は自らの無力さをこのように示すことから卒業するだろう。やがてハイハイをするか、それに変わる移動の方法を見つけ出し、ついには歩ける態勢が整うだろう。

(2) さほど昔の話ではないが、初めてこのビデオを見たとき、気がつくとは自分でもどうしようもない戸惑いを経験していて、容易には説明がつかないほど深い感動を覚えた。